

人権協 15周年を迎えました

吹田市人権啓発推進協議会（人権協）は、平成8年（1996年）1月13日の結成、発足以来、15年を迎えました。15年の節目にあたり、現会長及び発足当初から役員としてご尽力いただいた方々よりメッセージをいただきました。



人権協だより30号によせて

吹田市人権啓発推進協議会会長 山本 冬彦

15周年のメッセージに先立ちまして、3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになられた方に哀悼の意を表するとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年度で吹田市人権啓発推進協議会は15周年を迎えます。そして、「人権協だより」は30号を発行することができました。これもひとえに、地区委員、常任委員、広報委員、役員それに事務局をはじめとする関係者、市民の皆さまのおかげと感謝しております。「広報」は編集側が一方的に情報や見解を伝えるというのではなく、読者の皆さまと相互に交流し、意見交換する場です。そして、書き手、発信者は読者の皆さまでもあります。

また、昨年は「吹田市人権尊重の社会をめざす条例」制定10周年の年でもありました。せっかくの条例も生かされなければ意味がありません。吹田市で活動されている様々な人たちと一緒に、これから人権協が取り組むべき課題を明らかにしつつ、読者の皆さまと一緒に歩んでいきたいと思います。

人権協 15年の歩み



ひと・あい・ふれあい じんけん 15ねん



吹田市人権啓発推進協議会15周年おめでとうございます。

吹田市各地区でそれぞれの地域に根付いた人権啓発活動が続けられている様子を嬉しく拝見しています。

平成7年10月3日に吹田市内の関係団体や大学関係者によって人権協設立準備委員会が設けられ、何回かの会合を経て平成8年1月13日森井暁関大教授を会長に人権協が発足したことを、準備に関わった一員として懐かしく思い出しました。以来15年間、5月の「憲法と市民のつどい」と12月の「人権フェスティバル」の二大行事や、各地区を中心とした地道な活動が続けられ、さらに市内の小・中学生から寄せられた人権作品を展示することにより人権意識を高めることに貢献してくださっていることに尊敬の念を持ち、今後の一層の活躍を期待しています。

今後とも地区推進委員の一人ひとりのお力を結集して吹田市の人権意識の向上と徹底に努力していただきたいと思います。

現 吹田市人権擁護委員会委員長

元 吹田市人権啓発推進協議会副会長 福田 行恵



吹田市人権啓発推進協議会への期待

わが国は急速に超高齢社会を迎え、誰かの援助や世話を受けてしか生活できない高齢者が増加すると予想されます。超高齢社会では何よりも共に助け支え合うシステムが求められます。しかし、今日の私たちの社会は、これまでの家族や親族関係、地域の人々の人間関係が弱くなり、そのことが人々のつながりやコミュニケーションをなくし、孤独死など社会から取り残された人々が増加し、無縁社会とさえ言われています。

人間が一人で生きられない以上、人間は助け合い支え合って生きていく必要があります。援助や救いを求めている人を助けることは人間として当然の務めのはずです。性別、年齢、国籍、障がいのあるなしに関係なく、人が社会から排除されないような共に助け支え合うシステムの構築が今日の社会の課題であると思います。地域で皆が支え合う仕組みを形成するためには、人間の尊厳と人権を尊重する人権文化の形成が求められます。今後、人権協が地域の人々と一緒に人権活動を一層推進して、共に助け支え合うバリアフリーの共生社会の形成に貢献することを期待します。

現 吹田市人権啓発推進協議会顧問

元 吹田市人権啓発推進協議会副会長 狩俣 正雄